

特集

その先の輝きへ…

巳年は、実を結ぶ年。とはいえ、種をまかないことには始まりません。すずなりの成果を期待するなら、水や肥料、努力や労力も惜しんではられません。実は種に、種は実に。実りは、夢をつなぐ始まりでもあります。さあ、情熱のカプセルを胸に埋め込んで、あなたも輝く人の仲間入り。挑戦し、やりとげるその先には、大きな結実が待っています。がんばるすべての人にエールを、新年号の特集です。



まちの熟度を高め さらに魅力ある岡谷市へ

岡谷市長 今井 竜五

新年おめでとうございます。

市民の皆様には、輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年は、市民の皆様の多大なご理解のもと、新病院建設をはじめとした重要な各種事業が、それぞれ目標に向けて大きく前進する動きのあった年と実感しております。

国政におきましては、衆議院の解散総選挙が行われ、政局も変化を見せながら年を越し、新たに動き始めておりますが、地方自治体に取りましては、今後の政治がどのような方向に向かっていくのかその動向を注視していかなければなりません。

岡谷市におきましては、迎えま

す平成25年度は、第4次岡谷市総合計画の5年目を迎え、前期基本計画も最終年となることから、これまでの成果を踏まえ、引き続き、まちの熟度を高めながら、岡谷市の未来を展望する年として位置付けております。

先を見通すことが難しい時代ではありますが、刻々と変化する情勢を見極めながら収入の確保に万全を期し、新病院建設事業をはじめとした重要施策の着実な進展と、市民生活を起点とした様々な施策を展開してまいりるべく決意を新たにしております。

将来都市像として掲げた「みんなが元気に輝く たくましいまち岡谷」の実現を目指し、市民の皆様とともに、将来に夢と希望の持てるまちづくりを進めてまいりますので、引き続き、ご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

迎えました新年が、市民の皆様にとりまして輝かしく、そして幸多き年となりますよう祈念申し上げます。新年のあいさつといたします。

平成25年 元旦



次の目標に向かって がんばりたい



好きな科目は「社会」です。漢検には、父親の勧めで、小1から挑戦してきましたが、もともと、漢字に特別興味があったわけではないです。それでも、新しいことを覚えるのが好き、というのと、やると



湊小6年 瀧沢 ^{はやて} 颯さん

このところ、テレビのクイズ番組などで漢字問題の出題が増え、注目を集めている漢検（正式には漢字能力検定）。最高峰の1級ともなると、読み書きにとどまらず、求められる知識、理解力は相当なもの。そんな難解な試験に、なんと小学5年生で合格。小学生の漢検1級合格は県内初とのこと。小4の2月に、最年少記録をかけて受験したときには、合格点に惜しくも2点及ばず涙をのんだというが、昨年6月の再チャレンジでは、8割を超す正解率でみごと難関を突破した。現在は英検（実用英語技能検定）1級に照準を合わせて猛勉強中。



結果が出ることから、いつの間にか楽しくなり、「もつとできる」と、続けることができました。途中からは勉強が大変で、怠けなくなったこともありました、ここまできて

曲を作り表現者としての 自分を磨いていく



高1の時、「NHKのど自慢」に出場してチャンピオンになったのがきっかけで、「歌手になりたい」という夢が目標に変わりました。「絶対できる!」という思いが自分を動かす、それから1年くらい本格的に作



シンガーソングライター 武井ゆりなさん

東堀出身。昨年3月、高校卒業と同時に上京。4月には、インディーズレーベルから、ファーストミニアルバム「Gloomy」を発売した。収録曲「君にテレパシー」は、某スポーツドリンクのスマートフォン向けアプリ・テーマソングに使われ、透明感のあるパンチの利いた声に評価と注目が集まった。9月には、地元カノラホールで初のライブを開き、16曲を熱唱。自分が自分であるための曲をつくり、たくさんの人に歌を聴いてほしい、と、現在も週1ペースでのライブを続け、定期的に自身のブログ「イツデモアタシハGloomy」も更新中。

やめてしまふのはもったいない。頂上が見えているのに、今さら引き下がれないと思って毎日がんばりました。つらいときは、合格したときのうれしい気持ちを思い出し、気持ちを奮い立たせました。今年は、

中学に入学するので、環境が変わるし、教科の勉強も大変になると思うけれど、併せて英検1級への挑戦をしていくつもりです。中1のうちに合格、それが目標です。勉強も両立してがんばります。

曲の勉強をして、曲も書きためていきました。不安もありますが、いつも新鮮なライブをしたい、いいライブのため
に、いい曲を書きたい、それが心の糧です。



毎日のくり返しが 新しいものにつながる

今年、創業100年を迎えるので、地域と、お客さまと、スタッフに、感謝の気持ちを表すイベントを



ヌーベル梅林堂代表 中村 文明さん

4月、ヌーベル梅林堂を代表する銘菓「くるみやまびこ」のモンドセレクション最高金賞受賞が決まった。同じ商品による7年連続は快挙中の快挙。初出品の創作菓子「実りのバターサンド・いろあわせ抹茶」も銀賞を受賞した。モンドセレクションは、食品のオリンピックともいわれる世界的なコンクールで、幅広い食品の味覚、原材料ほか衛生管理を含む品質、パッケージなどが審査される。最高金賞は100点満点の95点以上。3年目に国際優秀品質賞を受賞しているが、10年連続をめざしてさらに挑戦を続ける。

今年は20歳になりますが、大人だからとか、そういうのではなく、自分として、今をしっかり受けとめていくことがだいじかなと考えています。もどかしい思いをすることも多いけれど、いろんなものから感動や刺激をもらって、経験の幅を広げ、勉強して、まずは自分を確立する、それが目標です。武井ゆりなのテーマをしっかり固めていくことで、もっとがんばれる気がしています。



美よう室湖畔代表 坂田まさ子さん

10月、浦安市で開かれた、日本最大規模の美容と着付けのコンテスト「INTERNATIONAL BEAUTY FORUM 第62回芸術祭全国大会」着装部門花嫁着付けの部で、制限時間内にモデルを美しく着付ける技術を競い、最優秀賞（厚生労働大臣賞）に輝いた。同時に美容専門誌などを手がける企業から贈られる「百日草賞」も受賞した。娘さんの遺志を引き継ぎ出場を決めた一昨年は、最優秀賞に届かなかったが、大会が終わった瞬間から、次こそ…という強い思いで努力し、去年、2度目の挑戦にして、鮮やかなリベンジを達成した。

計画中です。また、次の100年への第一歩として、店の基盤を充実させる年になりたいと思っています。「くるみやまびこ」は、スィスの田舎を訪れたときに、信州とどこか似ているなと感じ、そこで出会った菓子をヒントに父と一緒に作りました。昭和61年のことです。当初はあまり売れず、どうせ売れ残るんだから…と母が店内でふるまっているうちに少しずつ広まり、その後、ハーフやライトのラインナップも加えて、ご好評をいただける



までになりました。地元の新鮮でおいしい素材、自然の恵みを生かすという立ち位置を大切に、今後は身体によりやさしいものを発信していくと、諏訪の野菜を使ったスィーツなどを考えています。「くるみやまびこ」に次ぐ看板商品を生み出せたらうれしいですね。



日々の仕事で恩返しを していきたい



悲しみのなかで立ち尽くしては、後悔が残るだけ。多くの人に支えられ今のわたしがいる…。何よりかけがえのないこの仕事をあきらめるわけにはいかない、と思うまでは随分涙しました。娘の思いをかなえたいという親心と、一心にご指導くださる先生の熱意、店を空け迷惑をかけたお客さま、留守を守ってくれたスタッフ等々、どうしても優勝しなければという気持ちでいっぱいでした。美容の仕事には終わりがありません。ひと山越えれば、また次の山が待っています。他人と比較するのではなく、自分の器のなかで最大限に努力し、お客さまに応えたいと思います。そして着物のよさを若い人たちに伝えるお手伝いができたら幸せに思います。それが、お世話になったみなさ



人生を全うするために、 全身全霊で描く



いのちをすり減らす真剣さで絵に向かっても、思いの半分くらいし



画家 岡谷市美術協会会長 山岡 巻人さん

長年画業に励み、日本画の公募展「院展」へ、毎回欠かさず出品。プロやプロをめざす人が、しのぎを削る権威あるこの美術展で、19回の入選を果たし、2009年からは同院特待に。繊細な色調が光や風をかわらかく躍らせる作品が印象的だ。昨年の春の院展には、長男の忠曠さん(東京芸大大学院在籍)と親子でダブル入選。身近な生活のなかに題材を求め、こつこつと絵を描く一方、日本画教室を主宰し、県展などでは審査員も務める。また、移転する市美術考古館を、子どもたちの感性を伸ばす活動などができ、心のゆとりにつながる「ものづくり」の拠点に、と期待を寄せている。



ん、コンクールを開催してくださった国際美容協会にできる恩返しだと考えます。日々好きな仕事のなかでお客さまの笑顔にふれ、喜びを共感し、元氣と幸せをいただく最高の仕事だと感謝しています。



じゃないかと思い、しばらくして落選した作品が戻ってくると、そんな自分を静かに見つめ直したり…。それでも大舞台への挑戦を続けることは、自分を磨くための試練。人生をだいじにするための戒めだと思っています。息子にも「恐れず落選を繰り返せ」といっています。絵を見てくれたうちの1人でも、元氣になってくれるなら、描く使命があります。見てもらえる感謝に応えるため、精一杯に挑戦なくてはと思います。経験を積み重ねて身体が覚えたことを、一生けん命にするだけです。絵に心のメッセージ、言葉をつづっていかれたら、とそれだけです。

